

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長	齋藤 政徳
都整-14	実施事業	交通安全施設整備事業	■ 自治事務	主管課 道路課
			□ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全な通行を確保し、事故防止を図る。
効果	交通の円滑化、安全性の向上を図る。

2 平成29年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 交通安全施設を改修し、安全で円滑な交通を確保するとともに、通学路の安全対策を実施した。 市道027-000号線の交通安全対策施設工事(歩道段差等改善)を行った。 市道059-007号線の交通安全対策施設工事(ガードレール設置)及び市道027-000号線の交通安全施設整備工事(歩道整備)は、年度内に完了できないため、翌年度へ繰越しを行った。 市道034-066号線の交通安全対策施設工事(側溝蓋改修工、舗装工)を行った。 前年度からの繰越明許費により、市道055-000号線の交通安全対策施設工事(歩道段差等改善)を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯		・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	24,427	17,751	当初予算(千円)	40,565			
	国県支出金	3,593	5,059	国県支出金	9,460			
	地方債		6,500	地方債				
	その他			その他				
	一般財源	20,834	6,192	一般財源	31,105			
	人員配置数	2.0	2.0	人員配置数	1.7			
事業経費運営	人件費(千円)	16,598	16,667	人件費(千円)	14,283			
	総事業費(千円)	41,025	34,418	総事業費(千円)	54,848			
	市民1人当りの経費(円)	232	195	市民1人当りの経費(円)	311			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		△. 協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	
					事業へ統合

予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	交通の円滑化や安全性の確保のためには、歩道段差の解消、ガードレール等の交通安全対策施設や歩道整備といった交通安全施設の整備については、今後も進めていく必要があるが、限られた職員でできる事業量については、限界があるため引き続き現状維持とする。
----------	---	--------------------	--

総評(評価に対する考え方、根拠等)	歩行空間の確保や歩道の段差の解消等の市民ニーズは増大傾向にあることから、歩行者及び自転車利用者の安全確保や修繕計画の策定を積極的に進めていく必要があるが、業務執行にかかる人員等の配置や厳しい財政状況を考慮すると、現状の事業量で進めざるを得ない。
-------------------	--

平成29年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	交通事故対策及び交通の円滑化を図るためには、交通安全施設及び交通安全対策の整備は急務であるが、実施にあたっては道路幅員等の制約があること、また限られた職員での対策となるため、執行ができる事業量には限界がある。	
課題解決のために行った平成29年度の取組	現場状況に合わせ、実施可能な有効な対策を講じたことにより、歩行者及び自転車利用者の安全確保や交通の円滑化を図ることにより事故の抑止を図った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	市民からの交通安全施設及び交通安全対策の整備に係る要望は多く、その内容は多岐にわたるため、全ての事業について完了には至っていない。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	単位	指標の傾向							備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
	目標値								
	実績値								
	達成率								

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方									
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--